

視点1 必然性があり意欲が高まる課題設定（対象とのかかわり）

① 教材（問題）との出合わせ方・考えたい教材のしかけ

第6学年 家庭科「服がよるこぶ、ひと手間を。～衣服の手入れが導く快適生活への挑戦～」

児童は、前時に、手洗いでは汚れの落ち方に限界があり、よりすっきりと汚れを落とすために、洗剤を使う必要性に気づいている。本時のはじめには、問いを引き出すために、数人の児童に、自分が適量だと思う洗剤をすくい取る場面を設定した。そうすることで、児童は、自然と他者がすくった量と比較し、「あれ、自分の分と量が違うな。」「こんなに必要ないかもしれないな。」などといった疑問をもち、「洗剤の量はどうやって決めたらよいか。」という本時の問いを立てることができた。

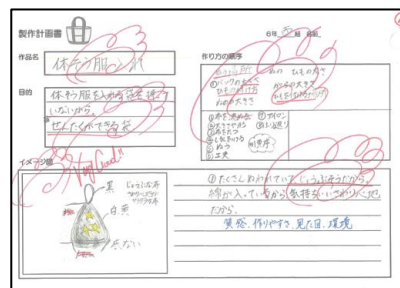


【児童が洗剤の量を量る様子】

② 問題解決的な学習を生み出す題材構成の工夫

第6学年 家庭科「ソーイングで生活を豊かに」

児童が、「考えたい」「作りたい」という思いをより強くもち、題材を「自分事」として捉えさせるために、本題材では、オリジナルの「マイバック」を制作することをゴールとした。題材のはじめに、児童に教師が制作したオリジナルのマイバックを提示することで、児童が「わたしたちも作ってみたい。」と憧れを抱き、「どうやったらこんな素敵なマイバックを作れるのだろう。」という課題をもち、題材により高い意欲をもって取り組むことができるようにした。また、作りたいバックのイメージをもたせるために、様々な形や大きさの布バックをじっくり触ったり観察したりする時間を設定した。そうすることで、児童は、完成したバックを実際に使用する場面を想起し、どんな形・大きさ・デザインのものを使いたいのか具体的にワークシートに書き表しており、題材を通して意欲的に課題解決に取り組む姿が見られた。



【児童が書いたマイバック計画書】